

函館市中央図書館資料選定基準

この選定基準は「函館市中央図書館資料収集方針」に基づき、函館市中央図書館の資料の収集にあたっての具体的基準を示したものである。

中央図書館は、市の中核図書館として市民の幅広い資料要求に応えられるよう、以下の資料別選定基準を別に定める。

1 一般資料

(1) 一般図書

一般図書は、市民の教養、調査研究、レクリエーション、生活に役立つ資料を、各分野にわたり体系的に収集する。一般書における主題ごとの収集・選定基準は、以下のとおり。

ア 0類：総記

- (ア) 各綱目間の関連性・類似性はない。各綱目間の冊数的、内容的バランスは考えず、必要な分野のみ重点的に収集する。
- (イ) この部門は内容上、最新性を要求される分野と、過去からの資料の累積を要求される分野の両方を含んでいるため、選書・保存・除籍すべてを考慮する必要がある。
- (ウ) 百科事典・年鑑類は、レファレンスを考慮し、豊富な資料を収集する。
- (エ) 各種の目録類、書誌類等、情報検索に役立つものは、網羅的に収集する。
- (オ) 情報科学・コンピュータは最新の知識を要求される分野である。入門書・概説書を中心に積極的に新鮮な資料を受入れる。資料の更新にも留意する。
- (カ) 技術書のほか、社会とコンピュータの関わり等について書かれた資料も収集する。

イ 1類：哲学・心理学・倫理学・宗教

- (ア) 哲学・思想・宗教等における原典（原著）・教典は基本的なもの（代表的原典等）をもれなく収集する。

- (イ) 哲学・心理学・倫理学・宗教のいずれの分野も、基本書を体系的に収集する。
- (ウ) 哲学・宗教は様々な学説・主張があるので、多様な観点に立った資料を収し、特定の主義・主張に偏らないように心がける。
- (エ) 初学者のための入門書、概説書をそろえる。
- (オ) 占い・姓名判断・人生論は利用が見込まれるため幅広く収集する。

ウ 2類：歴史・伝記・地理

- (ア) 利用の多い分野なので、読み物から入門書、概説書、研究書まで多様なレベルのものを数多く収集し、各分野の基本書も網羅的に収集する。
- (イ) 歴史書は信頼性と正確性に着目し選定する。学派・学説・歴史観の相違によって事実の取り上げ方も異なるため、特定の史観に偏らないように留意する。
- (ウ) 歴史のうち、通史は正しく史実をふまえているものを選ぶ。通史の世界史、日本史の全集、叢書は、複数揃えるように留意する。
- (エ) 歴史、人名、地名等の事典類、便覧、年表、地図などをなるべく揃える。その際、参考文献、索引の充実したものを選ぶよう留意する。
- (オ) 伝記は、日本人、外国人とも積極的に収集する。
- (カ) 地理は旅行、紀行、案内記のほか、地理学に関する資料及び地図をそろえ、資料の更新にも留意する。
- (キ) 地図は用途に応じて各種のものを収集する。
- (ク) 1枚ものの地図は2万5千分の1を基準として収集し、その他に市街図、道路図など必要なものを新しい版で収集する。

エ 3類：社会科学

- (ア) 社会科学は多種多様な学説・主張がある分野であり、それぞれの観点にたつ、多様な資料を収集する。また、客観的な観点の資料も収集するように留意する。
- (イ) 各分野の基本書を体系的に収集する。
- (ウ) 時代性に留意し、今日的諸問題に関する資料は積極的に収集する。
- (エ) 入門書・実用書は、常に新しい資料を揃えるようにする。また類書・複本も用意する。

- (オ) 調査・研究のための要求にも応じられるよう、専門書の収集に留意する。また日常生活や実務に必要な資料は積極的に収集する。
- (カ) 民話・伝説は体系的に収集する。
- (キ) 参考図書は総論から各論まで幅広く収集し、統計書も積極的に収集する。

オ 4類：自然科学

- (ア) 自然科学はその進歩と変化が著しいため、つねに最新の情報を提供できるように留意し、入門書・解説書を中心に収集する。
- (イ) 細分化された個別分野の高度な専門書は収集せず、大学の一般教養レベルのものを中心とし、入門書、解説書、概論、研究書までを収集する。
- (ウ) 利用者にわかりやすい表現の資料を収集する。特に図鑑等、図や写真の多い資料は積極的に収集する。
- (エ) 図書のほか、雑誌やデータベース等により新しい情報を提供するよう努める。
- (オ) 数学、化学、物理等の基礎的学問の分野は基本図書を中心に収集する。
- (カ) 評価の定まった参考図書はもれなく収集する。

カ 5類：技術・工学

- (ア) 科学技術の分野はその進歩と変化が著しいため、最新の情報を提供できるように資料の更新に努める。
- (イ) 入門書・解説書を中心に収集し、高度で、専門的な工学書は利用の見込める資料のみ収集する。
- (ウ) 科学技術の最新の動向について書かれた資料は、積極的に収集する。
- (エ) 趣味や生活、実用に役立つ資料は積極的に収集する。

キ 6類：産業

- (ア) 農業、漁業、商業、運輸交通、通信事業を特に重視する。
- (イ) 利用者が各産業の概略を理解するのに役立つ入門書、概説書を中心に収集する。また、最新の情報の収集にも留意する。
- (ウ) 趣味・実用に役立つ資料（園芸・ペット等）は積極的に収集する。

(エ) 農業，漁業等，地場産業に関する資料は郷土資料とは別に収集する。

ク 7類：芸術

(ア) 利用者の教養・趣味・娯楽に役立つ資料を，鑑賞・研究と制作・実技等との両面にわたり，入門書から専門書まで幅広く収集する。

(イ) 芸術分野の理論書・歴史書も基本書を中心に収集する。

(ウ) 美術全集・画集・写真集・工芸名品集等は主要なもの，類書の少ないものを中心に収集する。高価本については利用が多く見込まれるものを収集する。

(エ) スポーツについては，各種目，各レベルのものまで収集し，新しいスポーツにも留意する。

(オ) 新しい分野についての情報も迅速に提供できるように努める。

(カ) 利用の集中する分野については，資料の量にも留意する。

ケ 8類：言語

(ア) 教養・実用・学習に役立つ資料を収集する。(特にあいさつ・スピーチ・手紙・論文等)

(イ) 日本語および各言語に関する入門書，概説書，および主要な著作を中心に収集する。辞典類はこの分野の中心となる資料であるので，重点的に収集する。

(ウ) 特に日本語，英語の辞典類は主要なものをもれなく収集する。また貸出用の複本も必要に応じ用意する。

(エ) 辞典類は改訂に注意を払い，改訂されたときは速やかに更新する。中央館では古い版も保管する。

(オ) 各国語の語学書については，中国語，朝鮮語，英語，ドイツ語，フランス語，スペイン語，イタリア語，ロシア語を中心に収集し，少数言語についても収集に努める。各国語の辞典類についても同様とする。

コ 9類：文学

(ア) 最も利用の多い分野なので，各ジャンルにわたり幅広く，積極的に収集する。

(イ) 全集，作品集に入っている作品でも，利用が多く見込まれるものや，単行本，

文庫本の形態の方が利用しやすい作品については、複本も用意する。

- (ウ) 文庫のみで出版されている作品や、多くの利用が見込まれるものは、絶版等に留意して収集する。受賞作品や話題になっている作品はもれなく収集する。
- (エ) 個人全集はできるだけ幅広く収集する。評価の定まった全集類はもれなく収集する。
- (オ) 文学研究に関しては、入門書から専門書まで多様なレベルに応じた資料を収集する。
- (カ) 文学事典類は必要なものを収集する。

(2) ヤングアダルト資料

図書館利用の少ない中学生、高校生の年代であるヤングアダルト層を対象として、同世代の自発的な図書館利用を促すため、図書館資料にとどまらない音楽や映像資料の収集を図り、一般、児童とは独立した分野の資料収集に当たる。

- ア 収集分野を特定することなく、ヤングアダルト世代が求め、利用すると考えられる資料の収集に努める。
- イ 一般書、児童書資料の重複を妨げない。
- ウ マンガは、原則として装丁のしっかりした愛蔵版を中心とし、ある程度評価の定まった作品を収集する。
- エ 視聴覚資料および雑誌は、他の視聴覚資料とのバランスを考慮し、収集に努める。

(3) 逐次刊行物

ア 新聞

主要な日刊紙を中心に各種新聞を収集する。収集する分野別新聞は下記のとおり。

- (ア) 全国一般紙
- (イ) 地方紙
- (ウ) 業界専門紙
- (エ) スポーツ紙

- (オ) 英字新聞・外国語新聞
- (カ) 青少年, 児童向け新聞
- (キ) 官報
- (ク) その他

イ 雑誌

雑誌は, 最新の情報を提供することができるなど, 他の資料にはない速報性をもち, また, 調査研究に役立つ情報を含むことから, 幅広く収集するものとする。

- (ア) 生活に役立ち, 暮らしを豊かにすることを目的とした生活情報誌を収集する。
- (イ) 調査研究に役立つものを収集する。主に各分野の基本的な雑誌を幅広く収集し, 必要に応じ, 学術雑誌などの専門誌も収集する。
- (ウ) 函館市および北海道に関係する雑誌を積極的に収集する。
- (エ) 児童, ヤングアダルト, 障がい者を対象とするものや外国語雑誌等も収集する。

(オ) 主な収集分野

a 0類：総合

出版情報, 書評を扱った資料は, 図書館業務と関連することから積極的に収集する。また, 利用の多いニュース報道, 時事問題を扱った資料を幅広く収集する。

b 0類：情報

ビジネスマンや若者層に利用が多く見込まれることから, 幅広く収集する。

c 3類：経済, ビジネス

最新の情報を得られることから, 経済, 金融, 商業関係誌を積極的に収集する。

d 3類：教育

一般向けの教育研究誌, 教育情報誌を収集する。特に社会教育, 生涯学習, 家庭教育に重点をおいた資料を中心に収集する。

e 4類：自然科学

最新の情報を得られることから, 積極的に収集する。専門化向けの高度な研究誌は収集しない。

f 4類：福祉・医学

幅広い年齢層で関心があることから、高度な専門雑誌は除き、学生向け、一般向けのものを収集する。

g 5類：生活

日常生活に役立つ雑誌や生活に潤いを与えるための情報が得られる雑誌を体系的に収集する。

h 6類：産業・工業

各産業の新しい動き、技術の変化に対応する雑誌を中心に基本的なものを収集する。

i 7類：芸術

各分野の芸術情報誌、研究誌を幅広く収集する。

j 7類：スポーツ

主要なスポーツ誌を中心に収集する。

k 9類：文学

文芸雑誌は、研究誌から読み物まで幅広く収集する。また、文学賞主催の文芸雑誌の収集に留意する。

l 児童・ヤングアダルト

児童やヤングアダルト層の知識、興味に応える雑誌を収集する。

(4) 障がい者サービス資料

障がい者へのサービスは、視聴覚等に障がいを抱える市民だけではなく、図書館利用が不利な高齢者や長期療養中の市民へもその利用の対象を広げることを念頭に、資料の収集を図ることとする。

ア 点字図書・録音図書

幅広い分野にわたって収集に努める。また、点字図書館の所蔵資料に留意しながらその収集を図る。

イ 大活字本

弱視者のみならず、高齢者にも対応するため積極的に収集に努める。

ウ 字幕・手話入りビデオ

聴覚障がい者を対象としたビデオの収集に努める。

エ さわる絵本・布の絵本

だれでも楽しめる資料のため積極的に収集する。

(5) 外国語資料

情報化の進展に伴う社会・文化のグローバル化に対応した開かれた図書館を目指し、異文化間の相互理解を深めるために、多言語で書かれた資料を収集する。

ア 市内近郊に居住する外国人，帰国子女，語学学習者などを利用対象として，各分野にわたる外国語資料を収集する。

イ 英語を言語とする資料を中心に収集するほか，ロシア語やアジア語圏の資料の収集に努める。

ウ 居留する外国人のために，日本を紹介した資料を収集する。

エ 当市と提携している外国の姉妹都市資料の収集に努める。

オ 外国語の図書資料のほか，新聞，雑誌，視聴覚資料についても収集する。

(6) 視聴覚資料

オーディオやビデオ機器等の普及に伴い，市民の教養・余暇活動として優れた視聴覚資料を図書館資料として収集する。なお，収集する資料は，その著作権者から館内上映，館内視聴，館外貸出などの利用許諾を得た資料を収集するものとする。また，新しい形態の視聴覚資料の収集については，機器やその資料の普及状況を見極めながら検討する。

ア 収集する資料の範囲

(ア) 映像資料

【収集メディア】 VHS，DVD，映写フィルム（16 mm）

(イ) 録音資料

CD化されている資料はCDでの収集を優先する。CD化されていない資料についてはカセットテープでも収集する。

活字資料を音声化した朗読テープ、カセットブック、録音図書は積極的に収集する。

【収集メディア】 CD、カセットテープ

(ウ) その他

【収集メディア】 マイクロフィルム、CD-ROM、DVD-ROM

イ 収集する資料の分野

(ア) 映像資料

a 映画（邦画・外国映画）

国内外の古典や名作、アカデミー賞など各国の映画祭で受賞した作品、主要な映画作家の作品を中心に収集する。

視覚・聴覚等の障がい者にも鑑賞しやすいよう、邦画の字幕版や洋画の日本語吹き替え版等も収集するよう努める。

館内上映の著作権許諾が得られているものは積極的に収集する。

b 児童

古今の童話、民話、昔話などのアニメ作品は積極的に収集する。

その他のアニメ作品は、教育的価値や話題性を考慮しながら幅広く収集する。

学習用資料は各分野を幅広く収集する。

c その他の分野（教養・実用・スポーツ・語学・芸術・歴史など）

ノンフィクション、ドキュメンタリーなどは、記録的価値や話題性などを考慮して各分野を幅広く収集する。

教養・実用向けの資料は、映像による効果の高いものを中心に、日常生活に役立つものを幅広く収集する。

d 郷土資料

函館や道南を舞台にした映画やドラマ、記録映像は積極的に収集する。

函館・道南出身者が製作・監督・脚本・出演している作品は積極的に収集する。

(イ) 録音資料

a クラシック

下記のジャンルについて、代表的な古典作品、主要な作曲家・演奏家・指揮者の作品を中心に収集する。

同一作品であっても指揮者、演奏者、演奏形態等が異なるものは幅広く収集する。

【収集ジャンル】管弦楽曲，交響曲，協奏曲，独奏曲，室内楽曲，声楽曲，歌劇，合唱，バレエ音楽，宗教音楽，現代音楽，その他

b ジャズ・ポピュラー音楽

下記のジャンルについて、評価の高いアーティストの作品を幅広く収集する。

【収集ジャンル】ジャズ，フォーク，ゴスペル，カンツォーネ，シャンソン，イージーリスニング，映画音楽，ラテン音楽，ハワイアン，その他

c 日本の伝統芸能・音楽

下記のジャンルについて、幅広く収集する。同一作品であっても演奏者、演奏形態等が異なるものは幅広く収集する。

【収集ジャンル】雅楽，仏教音楽，能，狂言，謡曲，和楽器，民謡，詩吟，現代邦楽，その他

d 各国の伝統芸能・音楽，民族音楽

教材として利用できる作品も考慮しながら、幅広く収集する。

e 演劇・演芸・落語

代表的な古典作品，著名な演者の作品を中心に収集する。

【収集ジャンル】歌舞伎，演劇，落語，漫談，浪曲，講談，その他

f 朗読・語り

文芸作品を朗読した資料を中心に収集する。

g 児童向け

子供向けのクラシックや童謡，童話・昔話の朗読作品，学習用資料などを幅広く収集する。童謡・唱歌は幅広く収集する。

h その他の分野

自然音や効果音，式典音楽などの実用音楽は，多種多様な用途に利用されることから，幅広く収集する。

i 郷土資料

函館・道南出身のアーティストの作品および函館・道南・北海道を主題とする作品は積極的に収集する。

(7) 移動図書館資料

移動図書館の搭載する資料の冊数に制限があること、また、主たる利用者が高齢者や主婦、児童であることから小説、実用書、趣味、児童書などを中心に収集を行う。

ア 利用の多いもの、話題性の高いものを中心に収集する。利用頻度によっては、複本を用意する。

イ スポーツ、レジャー関係、旅行ガイドブックなどの実用書を収集し、適宜資料の更新を図る。

ウ 利用が見込まれる暮らし、趣味関係を収集し、適宜資料の更新を図る。

エ 各分野の評価の定まった資料を収集し、利用頻度によっては、複本を用意する。

2 児童資料

(1) 児童資料収集の考え方

児童資料収集に当たっての基本的考え方は、次のとおりとする。

ア 各分野の評価の定まった資料（以下「基本図書」という。）は、もれなく収集し、日常的に維持、更新して欠本を生じないようにする。

イ 絶版、品切れとなった基本図書の保存に努める。

ウ 成人を対象とした児童文学研究とその関連資料の収集に努める。

エ 性を興味本位で扱ったものや異常な怪奇性、残虐性のあるものは収集しない。

オ 利用頻度に応じて複本を揃える。

カ 学習参考書、各種問題集は、原則として収集しない。

(2) 主題別の収集・選定基準

ア 0類：総記

(ア) 総合的学習の時間や自由研究に対応できるよう百科事典、図鑑類を中心に収集する。図鑑類は体系的に記述されており、写真やイラストを取り入れて児童が理解しやすいものを収集する。

- (イ) 子どもを対象として書かれたコンピュータ関連の資料を積極的に収集する。
なお、収集に当たっては、改訂、新訂の情報に留意し、新しい情報のものを収集することに努める。

イ 1類：哲学（哲学・心理学・宗教）

- (ア) わかりやすい哲学・倫理・思想・宗教の資料を収集する。
- (イ) 生き方や人生に関する本を収集する。
- (ウ) 占いや心霊関係の資料についても必要に応じ収集する。

ウ 2類：歴史（歴史・伝記・地理）

- (ア) 利用が多いことから体系的に収集する。
- (イ) 社会科の学習との関連に留意しながら収集する。
- (ウ) 理解を助ける図版，写真，イラスト（まんが）などを取り込んだ資料に留意しながら収集する。
- (エ) 各種年表・事典・地図などを収集する。
- (オ) 歴史においては、歴史観の相違から記述に差があるため、異なる出版社の一定水準に達したものを何種類か揃える。
- (カ) 戦争については、実証的に書かれた本を積極的に収集する。
- (キ) 伝記は、より多くの人物に多様な観点からアプローチできるように幅広く収集する。また、その行動・業績を通して被伝者の生活や生き方を伝えるものを収集する。
- (ク) 幼い子どものための伝記は、事実を正確に伝えるものを選ぶようにする。
- (ケ) 地理は、日本国内の各地域や世界各国の資料を体系的に収集する。特に社会情勢に常に留意し、最新の資料の提供に努める。また、函館市や北海道関係の資料を積極的に収集する。さらに、社会見学，修学旅行の事前学習の利用に対応できるように幅広く収集する。

エ 3類：社会科学（政治・経済・教育・民族）

- (ア) 社会についての基礎的知識が、児童にも十分理解可能な内容で記述されてい

る資料を中心に収集する。

(イ) 身近な社会の問題から世界的な問題を扱った資料まで幅広く収集する。

(ウ) 社会の新しい動向について記述されている資料の収集に留意する。

(エ) 多様な解釈、対立する意見のある分野については、それぞれの観点に立った資料を幅広く収集する。

(オ) 学校での学習内容に留意し、社会科の学習の利用に対応できるよう幅広く収集する。

オ 4類：自然科学（数学・物理・化学・地学・生物・医学）

(ア) 子どもに科学的な物の見方、考え方を育てる資料を体系的に収集する。

(イ) 子どもの旺盛な知識欲に応えられるよう、多様なテーマの資料を収集する。

(ウ) 自然に対する興味を深め、子どもと自然とのふれあいの手引きとなるような資料を収集する。

(エ) 子どもの発達段階に応じた資料を収集する。

(オ) 科学、技術の進歩に常に留意し、最新の資料の提供に努める。

カ 5類：技術（工業・家政学）

(ア) 科学技術への理解を深め、創造への興味を引き出す資料を収集する。

(イ) 最新のデータ・情報に基づいて記述されたものを収集する。

(ウ) 公害・環境問題について、多様な観点での資料を収集する。

(エ) 料理、手芸などの資料は、実用的な資料を中心に幅広く収集する。

キ 6類：産業

(ア) 総合的な学習の時間、社会科学習等との関係が深いいため、各種産業に関わる多様な資料を収集する。

(イ) 産業界の新しい動向に触れた資料に留意する。

(ウ) 園芸や動物の飼育に関する資料は、実用的な資料を中心に収集する。

ク 7類：芸術（芸術・スポーツ・娯楽）

- (ア) 利用の多い分野であることから、各分野の基本となる資料を体系的に収集する。
- (イ) 子どもたちの興味や流行に留意し、最新の情報の提供に努める。
- (ウ) 図版、イラスト、写真を効果的に使った資料の収集に留意する。
- (エ) 美術では、子どもの美的鑑賞力が養われ、芸術に対する興味を深められる資料を収集する。また、美術の各主題にわたって理論、歴史、技法を紹介した資料を収集する。
- (オ) 工作では工作物のしくみを理解し、楽しみながら作り方を学べる内容の資料を中心に収集する。
- (カ) 音楽では音楽史、音楽家、各種楽器について児童が十分理解できる内容としている資料を中心に収集する。

ケ 8類：言語

- (ア) 国語の学習に役立つ資料は、種類を十分に揃える。
- (イ) 辞典は、数種類揃える。
- (ウ) 児童を対象とした外国語図書も収集する。

コ 9類：絵本

絵本は、子どもの知的・情緒的経験を広げ、想像力を豊かに養うものを中心に幅広く収集する。収集に当たっては、以下の点を十分に考慮するものとする。

- (ア) 絵がストーリーを語っていること。
- (イ) 表現が豊かで、子どもの想像力・空想力を養うのに十分であること。
- (ウ) 絵と文の調和がとれていること。
- (エ) 知識絵本は正確な知識に基づいていて、用語やその使い方が正しいこと。

サ 9類：読み物

- (ア) 評価の定まった作家の作品はできるだけ収集する。
- (イ) 古典から現代まで日常的な出来事を扱っている作品を幅広く収集する。
- (ウ) 詩歌・戯曲なども収集する。

(エ) 児童の発達段階に応じた作品を収集する。

3 郷土資料

市民の調査研究その他の生活情報に資するため、また郷土の歴史を後世に伝えるため、郷土に関する多用な資料を積極的に収集する。

(1) 郷土資料の範囲

以下に掲げた地域（以下「郷土」という。）または人物・団体（以下「郷土人」という。）を主題としたものを収集する。

ア 地域

(ア) 函館市（合併前の亀田市，湯川町，銭亀町，戸井町，恵山町，椴法華村，南茅部町を含む）

(イ) 渡島・檜山地方（各地を含む）

イ 人物・団体

(ア) 函館市出身者および在住者

(イ) 渡島・檜山地方出身者および在住者

(ウ) 函館市に所在する公私の施設，機関，団体，委員会等

(エ) 渡島・檜山地方に所在する公私の施設，機関，団体，委員会等

ウ その他

郷土・郷土人を主題としていないものでも，以下の項目に該当し，特に必要と認められる場合は収集する。

(ア) 郷土・郷土人を記念した資料

(イ) 郷土で行われた行事・催し物に関する資料

(ウ) 郷土人の著作類（著述，編纂，翻訳，校訂，注釈，書き入れ，序，跋，書写，撮影等）

(エ) 郷土人が出版または発行した資料

(オ) 郷土・郷土人の理解に役立つ資料

(2) 資料の形態

- ア 図書資料（地図帳，楽譜帳を含む）は積極的に収集する。
- イ 書写資料は積極的に収集する。
- ウ 地図資料（地図帳を除く）は積極的に収集する。
- エ 楽譜資料（楽譜帳を除く）は積極的に収集する。
- オ 録音資料は寄贈受入により収集する。
- カ 映像資料（再生装置を必要とする静態および動態資料）は寄贈受入により収集する。
- キ 静止画資料（再生装置を必要としない静態資料）は寄贈受入により収集する。
- ク 電子資料（コンピューターおよび周辺装置によって利用可能となるデータ，プログラムまたは両者を組み合わせたもの）は寄贈受入により収集する。
- ケ 博物資料（立体的な資料）は市立函館博物館の収集範囲外のみ，寄贈受入により収集する。
- コ マイクロフィルムは寄贈受入により収集する。
- サ 逐次刊行物は積極的に収集する。

4 参考資料

主として特定の知識・情報を得るための資料を参考図書として収集する。参考図書は，常に利用者の調査・研究に対応できるよう常備資料とするが，比較的利用が多いものは，貸し出し用として収集する。参考図書の収集に当たっては，下記の点に留意する。

- (1) 参考図書は改訂等に注意し，最新の情報で提供するものを収集する。
- (2) 参考図書は，各分野の専門的かつ網羅的な資料を中心に収集する。特に白書類は網羅的に収集する。
- (3) 音訳資料の読みの調査に対応できるよう，読みを正確に把握できる参考図書を積極的に収集する。
- (4) 年鑑・白書類は，継続的に収集する。

この基準は，平成21年4月1日から施行する。